



～平成31年度 42号小日向谷川橋鋼上部工事～

発注者：紀勢国道事務所

受注者：KIT 株式会社 駒井ハルテック

構造形式：鋼2径間連続細幅箱桁橋

橋長：105.5m



※アニメーションです

<工事業概要>

本工事は、国道42号熊野尾鷲道路（Ⅱ期）（尾鷲北IC～尾鷲南IC）の一部分となる鋼上部工事で、国道42号熊野尾鷲道路と一体となって、南海トラフ巨大地震時における広域的防災に資する道路ネットワークの強化を目的とする自動車専用道路です。

架設地点には、天然記念物の『ヤマネ』が生息しています。ヤマネと共生した、安全・安心施工を心がけ、工事を進めて参ります。

～女性技術者が活躍する現場～

本工事では、設計、製作、工事の3部署で女性技術者が活躍しています。

設計



在原 優佳

入社：2016年

安全で、長く愛される橋を架けるため計算書や図面をくまなくチェックします。

最近では3次元データを活用し、検討作業の効率化を進めています。

数ミリ単位の細かい検討も、人々の生活を支えるインフラ整備に関わっていると思うと、手が抜けません。

製作



藤井 志帆

本工事では、VR（仮想現実）による溶接の作業性の検討を行いました。

限りなく実作業に近いイメージで作業者と意見交換でき、製作における方向性をより明確にすることができました。

このように、工場の中の様々な人と協力して製品づくりを行っていくことに、やりがいを感じています。

入社：2018年

工事



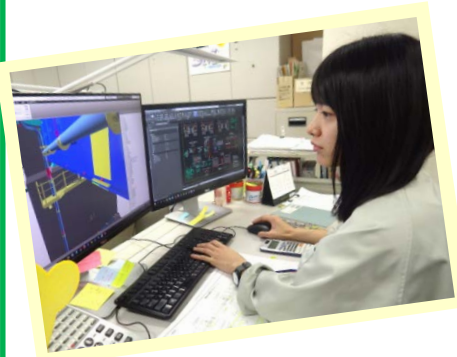
乃村 貢世

入社：2015年

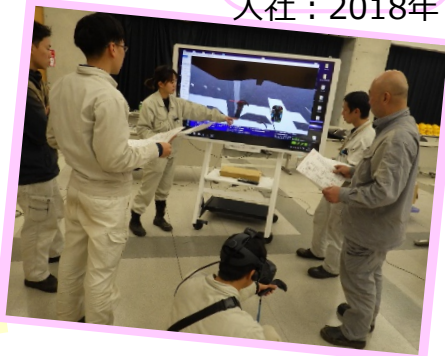
自然環境にやさしく、地域の皆さんの暮らしに配慮した、安全で安心な橋の架設ができるように施工方法を日々計画しています。

作業員さん達が安全に作業できるような足場や支保工など仮設備の計画は言うまでもありません。

完成後、地域で活躍している橋梁を見るととても感動します。



写真は、CIMモデルを用いて通行性の確認を行っている状況です。



写真は、CIMモデルとVRを連動させ、立体的な溶接作業性の検討を行っている状況です。



写真は、架設現場にて見学会を行っている状況です。

○私たちから未来をつくる若手・女性技術者の皆様へ○

スケールの大きいダイナミックなプロジェクトに携われることが私たちの仕事の醍醐味ですが、体力仕事は全てではありません。技術の進歩により、安全性や作業性が向上し、以前に比べ若手・女性が入り込みやすい環境になってきています。 私たちと一緒に未来への架け橋を作りませんか？